

第3章 避難所の仕事

1 避難者管理班

(1) 名簿管理

名簿の作成は、避難所を運営していく上で、最初に行わなければならない重要事項です。安否確認に対応したり、食糧や物資を全員に効率的に安定供給するために不可欠な仕事なので、できるだけ迅速かつ正確に作成することが望まれます。

ア 避難者名簿の作成

①避難者カードの整理

・集まったカードは居住組別に整理し、名簿を作成します。

②避難者の状況（現在人数、退所者人数、入所者人数）を整理し、運営会議へ報告します。

③事前に自主防災組織単位で地域住民の避難予定者名簿を作成しておく有効です。

イ 退所者の管理

①退所者の情報整理

・いつ退所したか。

・退所後の連絡先

（退所者の情報は、退所後に尋ねてくる人や郵便物に対応するために必要です。）

資料1 『避難者カード』参照

②退所した人の分の空きスペースを把握して、共同スペースの新規開設や新しい入所者のために活用します。

P29 『空間配置』参照

③退所者の情報は、削除せずそのまま残します。

ウ 入所者の管理

①入所者には避難者カードを記載してもらい、名簿に加えます。

②空いているスペースを確認して、部屋の割り振りを行い、避難所の生活ルールを説明します。

エ 外泊者の管理

①外泊届用紙を作成します。記入項目は次のようなものが考えられます。

・氏名（ふりがな）

- ・ 期間
 - ・ 外泊先（場所、連絡先等）
- ②組長を通じて、外泊届を受理し、把握します。

資料2 『外泊届用紙』参照

才 名簿の公開

- ①発災直後には、避難者の名簿を公開します。
- ・ 安否確認に対応するために、受付近くに避難者名簿一覧を掲示する必要があります。また、必要に応じて各居室の入り口にその居室の入居者名簿を掲示します。
- ②公開する個人の情報は限定します。
- ・ 避難者のプライバシーを保護するため、個人情報限定します。入所者を明らかにすることを目的としているため、内容は、世帯ごとの氏名、年齢もしくは旧住所程度にとどめます。
 - ・ 問い合わせが減ったら、プライバシー保護の観点から掲示を止めます。

(2) 問い合わせへの対応

避難所には様々な人が出入りします。避難者のプライバシーと安全を守るために受付を一本化し、部外者がむやみに立入ることを抑制する必要があります。

P12 「【図2-1】問い合わせへの対応」参照

ア 安否確認に対応します。

- ①発災直後は、施設あてにかかってくる電話と避難者あてにかかってくる電話があり、混乱します。誰が電話対応するのか、施設管理者と調整し、特定の人に負担がかかるようなことは避けます。
- ②問い合わせの人物が避難所にいるかどうか、名簿と照合して確認します。

イ 避難者へ伝言を連絡します。

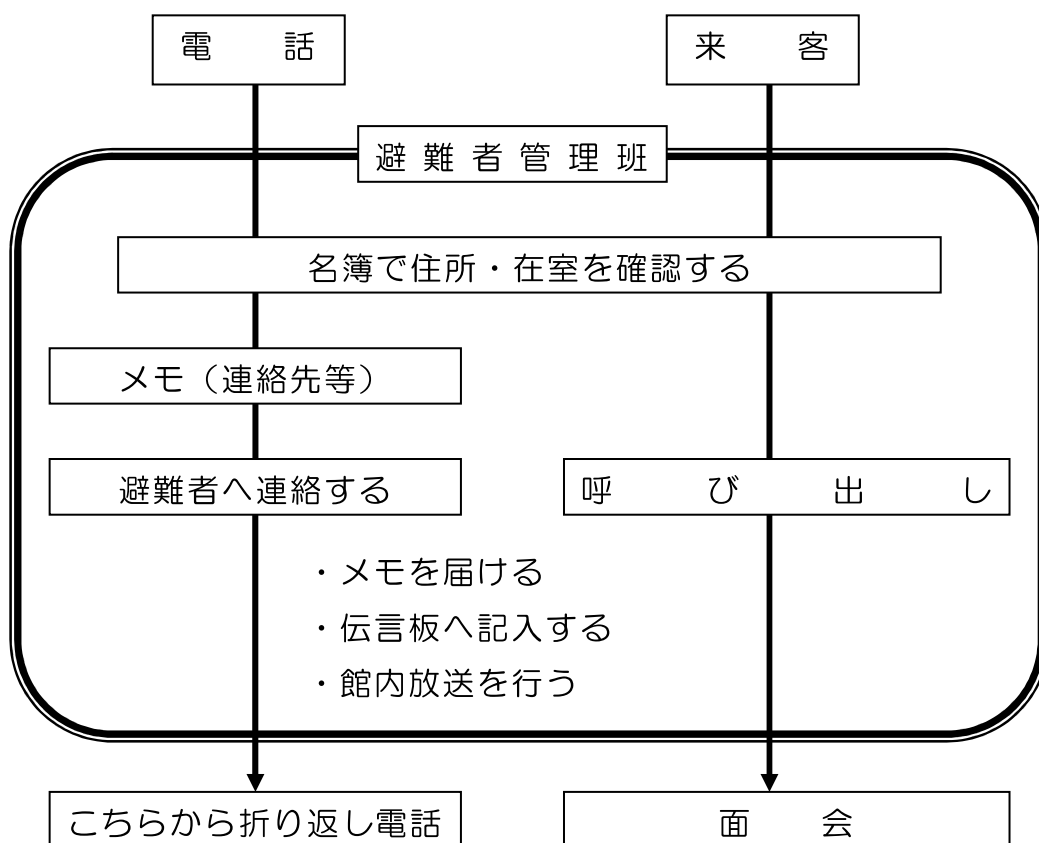
- ①施設内の電話は、直接避難者へは取り次ぎません。避難者へ伝言をして、折り返しかけ直してもらいます。公衆電話以外の施設内の電話を使う場合には、使用時間を制限します。
- ②避難者へ伝言を残す方法については、次のようなものが考えられ、電話の緊急度やそのときの状況(対応人員や忙しさなど)に応じて、対応します。

- ・伝令要員を準備する。
- ・伝言板を利用する。
- ・館内放送を利用する。(この場合、深夜を避けるなど時間の限定が必要です。)

ウ 来客があった場合

- ①避難所に居住している人以外は、原則として居住空間には立入らないようにします。
- ②入り口近くを来客用面会場として用意し、来客との面会を行います。

【図 2-1】 問い合わせへの対応



(3) 取材への対応

発災直後、避難所には各種マスコミの取材及び調査のために調査団が詰め掛けることが予想されます。避難所の代表者が対応する必要があります。

ア 運営会議で、取材に対応する基本方針を決定します。

- ①取材を受けるかどうか、取材陣に対してどのような対応をするかを決定します。

- イ 取材陣に対応します。
 - ①基本的には、取材及び調査に対しては避難所の代表が対応します。
 - ②取材対応専門の広報担当が対応してもかまいません。

- ウ 取材者の身分を確認します。
 - ①避難所で取材や調査を行う人には、必ず受付への立ち寄りを求め、氏名、所属、連絡先、取材目的などを確認する。

資料3 『取材者用受付用紙』参照

- ②取材者はバッチ又は腕章を付け、避難所内の人と識別できるようにします。

- エ 避難者が寝起きする居住空間での見学や取材は、原則として禁止します。

- ①居住空間に立入る際には、その居住者全員の了解を得ることが原則です。

- オ 避難所の見学には、必ず担当者が立ち会います。

- ①避難所内の見学をする場合には、必ず担当者が付き添います。また、避難者に対する取材へは、担当者を会して避難者が同意した場合のみ行います。

(4) 郵便物・宅配便の取次ぎ

避難所で生活する避難者あての郵便物・宅配便もかなりの量になることが予想されます。迅速かつ確実に受取人に手渡すためのシステムづくりが必要です。

- ア 郵便物、宅配便などについては、郵便局員及び宅配業者から避難者へ手渡してもらいます。

- ①郵便物や宅配便などを配達する人は、基本的に避難所内への出入りは可能とします。
 - ②防犯上の観点から、受付を通すこととします。

- イ 郵便物、宅配便などを受付で保管することも可能です。

- ①荷物は原則として受付では預かりませんが、避難者の人数が多い場合などには、全て受付で一括受け取りとし、居住組ごとに用意された箱に入れ、担当者が取りに来るような体制も可能です。
 - ②郵便物の紛失には注意をし、郵便物受け取り簿を用意するなどして対応します。

2 情 報 班

(1) 避難所外情報収集

災害時の通信手段を絶たれた状態では、情報が錯綜します。被災者にとって必要な情報を収集するためには、行政機関へ出向いたり、他の避難所と連携をとるなどの必要もあります。

ア 市からの情報収集

定期的に市の対策本部を訪ねて、公開されている情報を収集します。

イ 他の避難所との情報交換

①給水の情報や開店している店舗情報など、その地域独自の情報は非常に有効です。

②情報源については明確に把握し、デマに踊らされることのないよう注意します。

ウ マスコミからの情報収集

①あらゆるメディアから情報収集にあたり、集まった情報をわかりやすく整理します。

②集める情報は、次のようなものが考えられます。

- ・被害情報
- ・ライフラインの復旧状況
- ・鉄道、道路など交通機関の復旧状況
- ・生活関連情報（スーパー、銭湯の開店状況など）
- ・被災者救助情報

(2) 避難所外情報発信

避難所の状況を正確かつ迅速に外部に伝達することは、適切な支援を受けるためには重要なことです。また、避難所が地域の被害情報を発信することによって、市は被災地全体の被害状況をより詳細に把握することができます。

ア 市への情報発信

①発信する情報の信頼性を高めるために、情報の発信窓口は一本化します。

②市へ報告する情報は以下のものが考えられます。

- ・被災直後に報告すべき事項
(死者数、負傷者数、避難者数、必要食事数、地域の被災状況)
- ・避難生活において毎日報告すべき事項
(避難者数、必要食事数、避難者からの要望など)

- ③報告の手段は文書とし、避難所担当の市職員へ渡します。
- ④避難者の要望を行政へ伝えます。
 - ・必要な物資、食糧は、運営会議で取りまとめて市に要望します。
 - ・市への要望は優先順位をつけて、効率よく要望します。

イ 地域の情報拠点

- ①避難所は地域の情報拠点となります。
- ②自主防災組織と連携して、地域への情報発信にあたります。
- ③自主防災組織と避難所の運営組織が同一の場合には、避難所を中心として地域に情報発信することも大切です。
- ④避難所外の被災者が自由に情報を得ることができるように、外部の人でも見える場所に掲示板を設置します。

(3) 避難所内情報伝達

正しい情報を避難所全員が共有することは、非常に大切で、情報を効率よく、漏れのないように行き渡らせる必要があります。

ア 避難者全体への情報提供

- ①避難所内での情報伝達は、原則として文字情報とします。
- ②掲示板を作成します。

P16 「【図2-2】情報掲示板作成例」参照

P16 「【図2-3】掲示板の管理」参照

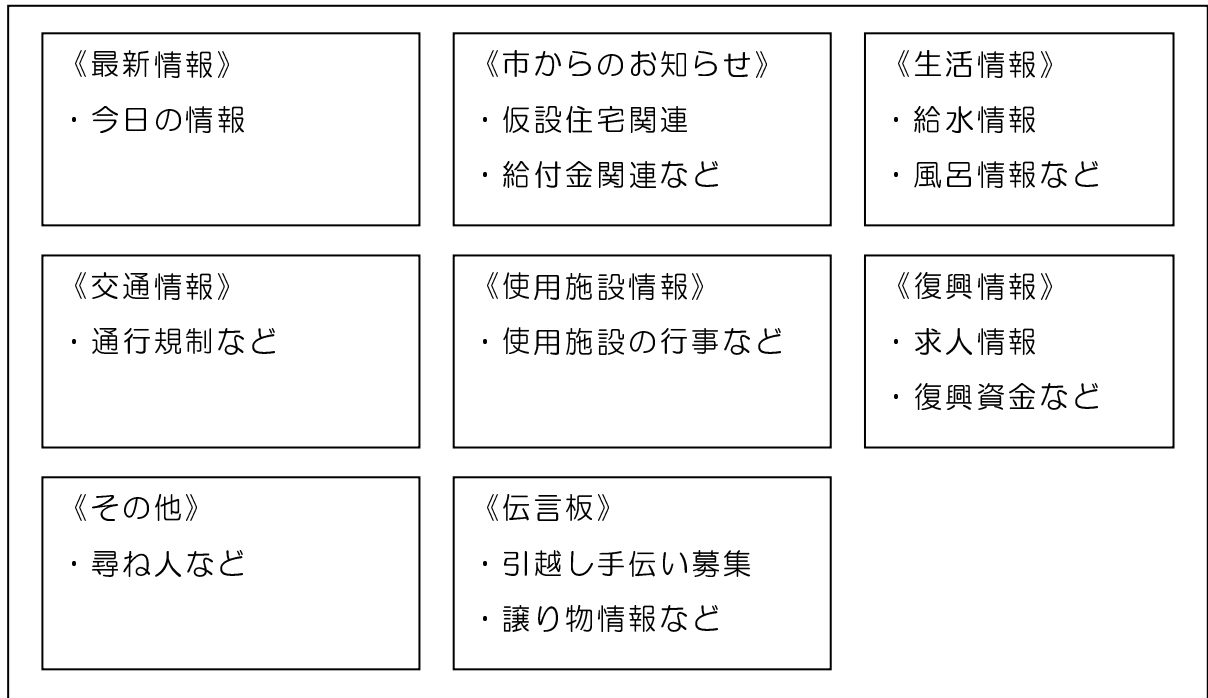
- ・施設内入り口近くなど、見やすい位置に掲示板を設置します。
- ・掲示板に掲載する情報には、次のような項目があります。
 - 最新情報(今日の情報)、市からのお知らせ、生活情報(給水、風呂、ライフラインなど)、交通情報(交通規制など)、復興情報(求人、資金援助など)、施設関連情報(避難所施設に関する情報)

- ③避難者へ定期的に掲示板を見るように呼びかけます。
- ④掲示板に掲載する情報は、掲示開始日時を記載します。
- ⑤特に重要な項目については、避難所運営会議で連絡し、居住組長を通じて避難者へ伝達する必要もあります。

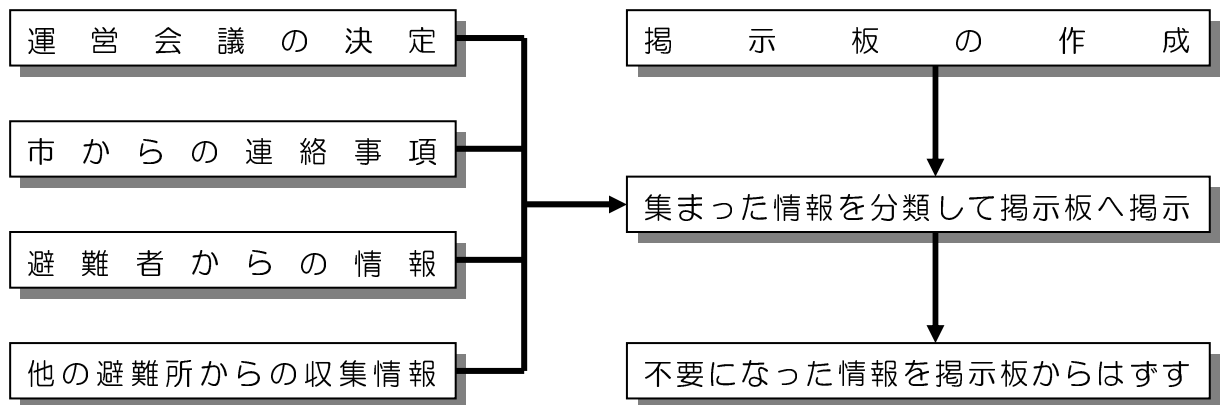
イ 避難者個人への情報提供

- ①居住組別に伝言ボックスを設け、組長が受け取りにくる体制を作ります。
- ②伝言ボックスの中は個人あての情報です。取り扱いと管理には注意を払います。

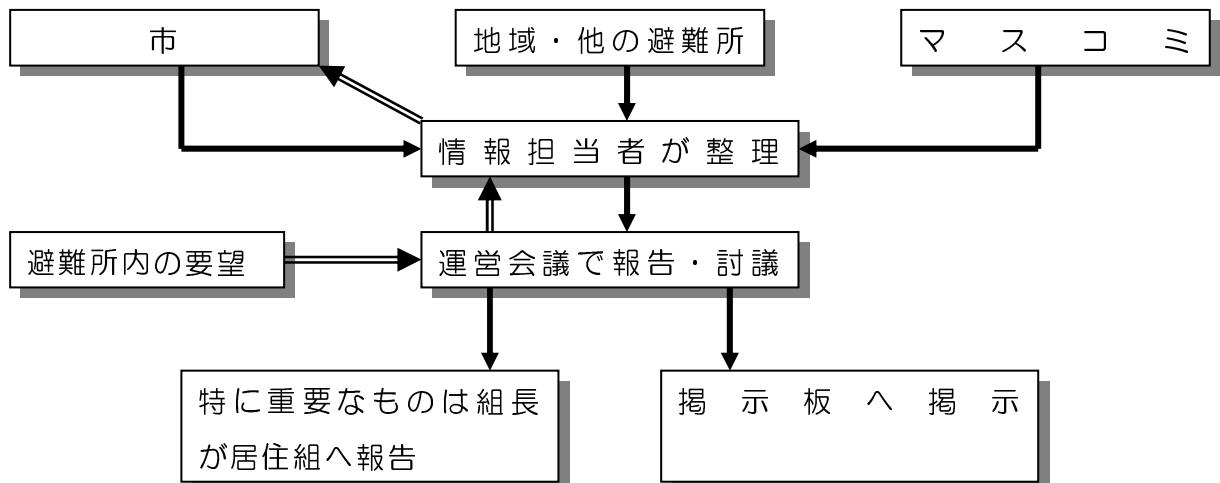
【図2-2】情報掲示板作成例



(図2-3) 掲示板の管理



(図2-4) 避難所の情報整理



3 食糧・物資班

(1) 食糧・物資の調達

市では、災害時対応として非常食や生活物資などを備蓄していますが、発災直後には十分な配給は行えません。食糧と物資を確保するために、避難人数と必要なものを市の災害対策本部へ速やかに報告するとともに、避難者が協力し合って炊き出しなどを行うことも当面の対応として必要です。

ア 必要な食糧・物資を市に報告する。

①市からの食糧・物資の提供を受けるためには、避難者数と必要な物資の品目・数量を把握し、市に報告します。

イ 市からの支援が不足する場合や遅れる場合には、避難所として対応策を考える必要があります。

①被災直後の混乱状況では、市からの食糧や物資の支援が十分に行なわれるとは限りません。応急対応として、避難者に持ち寄った食糧の提供を呼びかけます。

②避難者個人が持ち寄ったものは、個人の所有物ですが、家庭から持ち出すことができなかった避難者のために、提供をお願いします。

ウ 避難者ニーズの反映

①避難生活が長期化するにつれて、避難者の食糧・物資に対する要望は変化するので、避難者の要望を捕らえた調達を行います。

②物資の要請から実際の配給までには、時間がかかる場合があるので、将来予測を立てて要請します。

(2) 炊き出し

市から食糧などが配給されるまでの間、避難者自らが行う炊き出しは、食糧確保に重要な役割を担います。

ア 炊き出しに必要な道具を調達します。

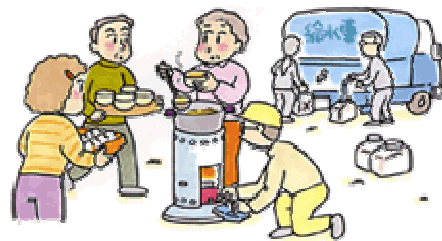
・調理用熱源（薪、石油、LP ガスなど）、調理用器具、食器など

イ 炊き出しの人員を確保する

①炊き出しの実施には、多大な労力を必要とします。一部の人に作業が集中しないよう配慮します。

ウ 炊き出しを行う際には、次の点に留意して行います。

①炊き出しは、施設管理者の了解を得たうえで実施します。



②炊き出しの実施や食事の管理は、避難者の中から調理師・栄養士などの有資格者を募り、栄養バランスへの配慮や衛生管理に務めます。

③高齢者や幼児にも配慮した献立を考えます。

(3) 食糧・物資の受入

市などから届く食糧・物資の受入には、多くの人員を必要としますので、できるだけ多くの人員を集め、効率よく搬入します。

ア 食糧・物資受入簿を作成し、受入の際には種類・数量を記入します。

①作業を迅速に行うために、品物を大まかに分類し、その個数を記入します。また、送付元や受入担当者も合わせて記入します。

資料4 『食糧・物資受入簿』参照

イ 食糧・物資受入の専用スペースを設けます。

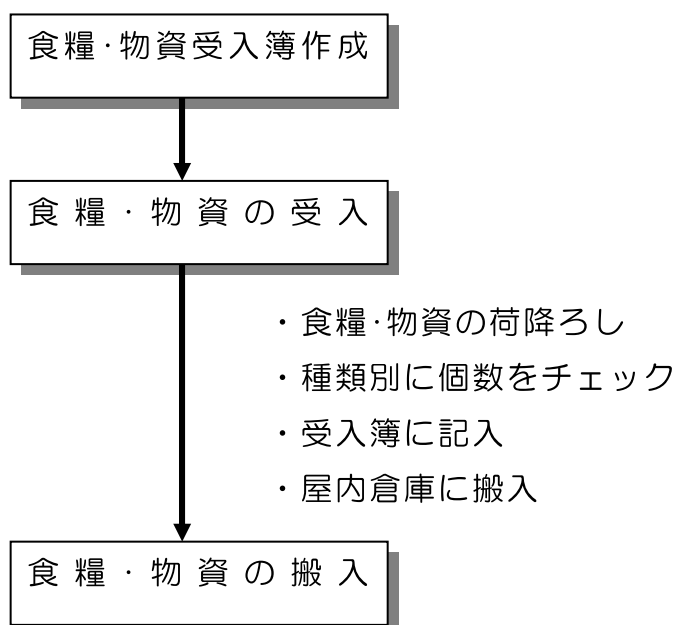
①専用スペースで、食糧・物資の大まかな分類をした後、倉庫へ保管します。

②車両の乗り入れがしやすく、雨天の際の作業を考慮すると屋根付きの場所が適当です。

エ 市などから来る食糧・物資の受入には、多くの人員が必要です。

①トラックからの荷降ろし、倉庫への搬送、物資の分類などは重労働です。ボランティアに協力を要請するなどして、できるだけ多くの人員を集めます。

②発災直後は、大量の食糧・物資が昼夜を問わず突然届く場合があります。宿直体制を組むなどして、対応する必要があります。



(4) 食糧の管理・配食

避難所内にある食糧の在庫を把握することは、避難所の運営において必須の仕事です。特に発災直後の混乱状況では、食糧が十分に行き届かないことも予想されるため、食糧の在庫を常に把握しながら配食することが重要です。

ア 食糧の管理

①食糧の在庫管理は、食糧管理簿を作成して行います。

資料5 『食糧管理簿』参照

②食品を入庫する際に製造日を確認し、ダンボール箱の見やすい位置に記入しておきます。

③特に夏場には、食品の管理には十分な注意を払います。低温かつ清潔な場所に保管するよう努めます。

④弁当などの傷みやすい加工食品については、賞味期限を過ぎたものは絶対に配食せず、廃棄します。

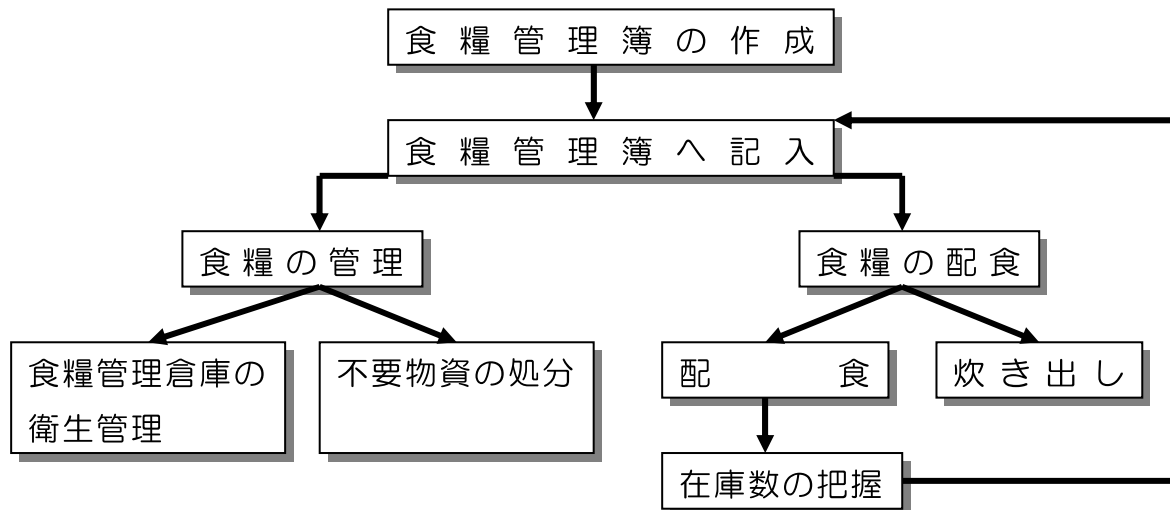
イ 食糧の配食

①発災直後は、食糧の支給が十分行き届かないことから、備蓄食品などを活用します。

②食糧の配食は、原則として居住組単位とし、代表者に渡します。この際、引換券を作成するなどして、混乱が起きないようにします。

③食糧が不足した場合、高齢者、子供、病弱者、身体障害者を優先して行います。

④避難者には、配食後速やかに食べて、個人で貯めこまないように指導します。



(5) 物資の管理・配給

ア 物資の管理

①食糧・物資受入簿とは別に、品目別の在庫数を確認するため、物資管理簿を作成します。

資料6 『物資管理簿』参照

②物資の配布方法によって分類した場合。

- ・全員に配布するもの (例：衣類、毛布など)
- ・必要な人に配布するもの (例：カイロ、生理用品など)
- ・全員が共同で使用するもの (例：トイレットペーパーなど)

③物資の用途によって分類した場合。

- ・衛生用品
- ・衣類
- ・日用品など

④不要物資は、原則として返却します。

イ 物資の配給

①全員が同じように必要とする物資は、全員に行き渡る量がある場合にのみ配ります。

②毛布など必要性が高い物資が全員に行き渡らない場合には、高齢者や子供などを優先して配布します。

③運営会議において、「誰に」配給するか (例：「〇歳以上の高齢者」、「〇歳以下の子供」など) を決定後に配給します。

④物資の配給は、原則として居住組単位とし、代表者に渡します。

⑤物資が備蓄できるほどの量になったときには、各自が必要なだけ取りに来る方式もとれます。

4 施設管理班

(1) 危険箇所対応

余震などによる二次災害を防ぐために、施設の危険度判定及び危険箇所の修繕は早急に行う必要があります。

ア 専門家による危険度判定を受けます。

①できるだけ早急に、専門の資格を有するものに危険度判定を行ってもらいます。判定士は、市の災害対策本部が派遣します。

イ 危険箇所への立ち入りは、厳重に禁止します。

①危険と判定された箇所は、張り紙やロープなどで明確にし、バリケードで立ち入りを禁止します。

ウ 危険箇所の修復は、施設管理者又は避難所担当市職員へ要望します。

(2) 防火・防犯

被災地の治安悪化が考えられ、集団生活においては火災の危険も増します。防火・防犯に留意し、避難所外へ呼びかけていく必要があります。

ア 火気の取り扱い場所を制限するとともに、取り扱いにも注意します。

①基本的には、室内は火気厳禁・禁煙とし、喫煙は定められた場所でのみ許可します。

イ 夜間の当直制度を設けたり、巡回を行います。

①被災直後の混乱している時期には、避難所内の治安維持のため、夜間巡回を行うことも必要です。

②余裕があれば、避難所内だけではなく周辺地域の巡回もします。

ウ 避難所内への部外者立ち入りを制限します。

①多くの避難者が生活する避難所では、入り口を全て施錠することはできないため、トラブルが起きやすくなります。入口近くに受付を設置し、外来者のチェックする体制を取ります。

②夜間は、正面玄関を閉鎖し、運営本部に近い入口 1ヶ所を解放します。

5 保健・衛生班

(1) ごみ

避難所では多数の人が共同生活をするため、大量のごみが発生します。また、被災直後の混乱期にはごみの収集も滞ると予想されます。

ア 避難所敷地内に、ごみ集積所を設置します。

①ごみ集積所は、以下のような場所に設置します。

- ・清掃車が出入りしやすい場所。
- ・調理室など、衛生に対して注意を払う箇所から離れた場所。
- ・居住空間からある程度離れ、臭気などが避けられる場所。
- ・直射日光が当たりにくく、できれば屋根のある場所。

イ ごみ集積所は、清潔に保ちます。

①通常とおり、分別してごみを出すよう周知します。

②ごみは、居住組ごとにまとめ、集積所に捨てます。

(2) 風呂

多数の避難者が共同生活する避難所において、平等で快適に入浴の機会を得るためには、様々なルールが必要です。

ア 避難所内に仮設風呂又はシャワーが設置されない場合。

①知人や親類宅での「もらい湯」を勧めます。

②市内の入浴施設の状況を把握し、避難者へ周知します。

③ボランティアなどによる入浴ツアーが実施されることがあるので、参加者を募ります。

イ 避難所内に仮設風呂又はシャワーが設置された場合は、使用方法を決めて利用します。

①男女別に利用時間を設定します。

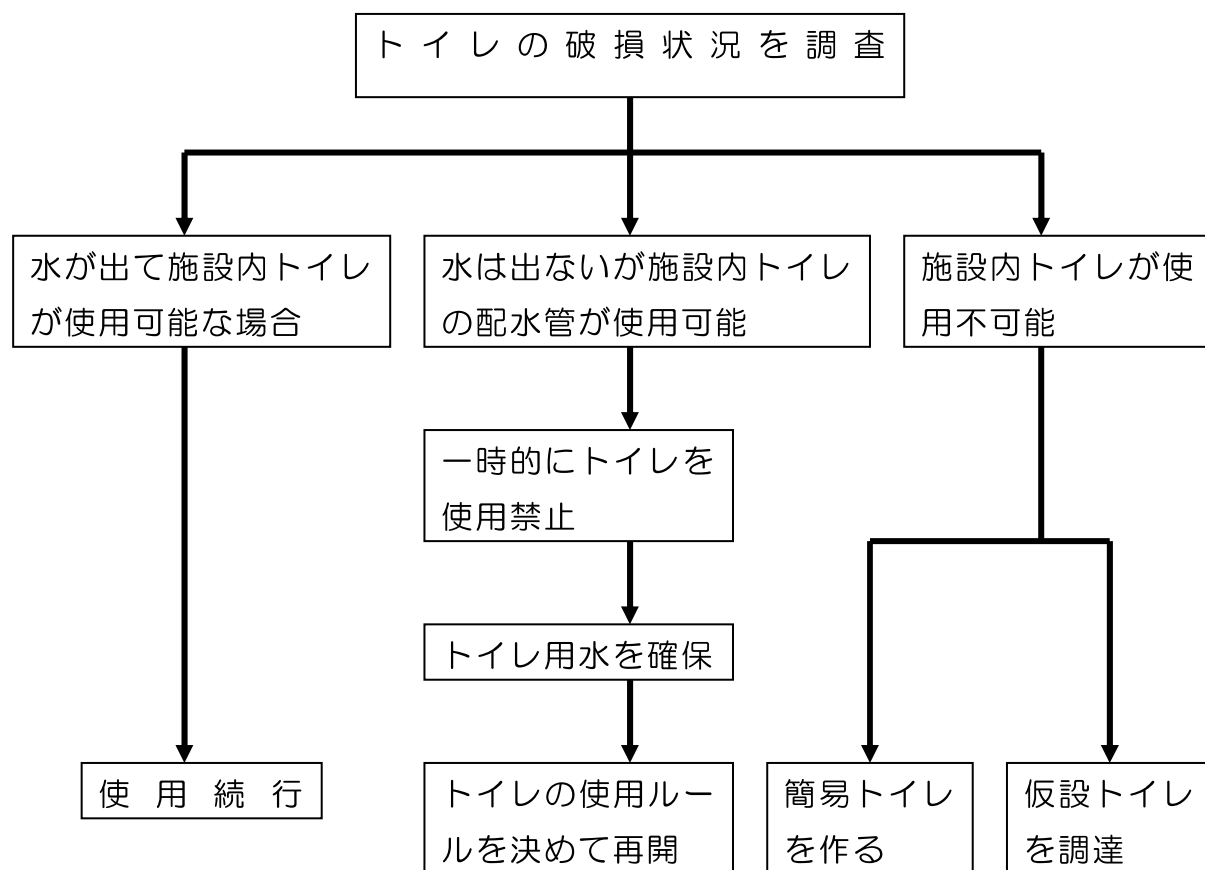
- ・利用日時を居住組単位で決める。
- ・利用時間はひとり 15 分程度に制限します。
- ・風呂の規模に応じた利用可能人数分の入浴券を発行します。

②希望者が減ってきたら、時間を区切った一覧表を作成し、希望者の自己申告を受け付けて、利用させます。

③浴室の清掃は、当番を決めて交代で行います。

(3) トイレ

水が自由に使用できない状況下では、トイレの確保は深刻な問題となります。避難者の人数に応じたトイレを確保し、その衛生状態を保つことは、避難所運営において重要な仕事です。



ア トイレの破損状況を調べます。

①施設内のトイレ配水管が使用可能か早急に調べます。水は出ないが使用可能な場合には、一時的に使用禁止とします。

②施設内配水管状況の判定が困難な場合には、1階のトイレを優先的に使用します。

イ トイレ用水を確保します。

①水は出ないが配水管が使用可能な場合には、汚水を流すための用水を確保し、使用します。

P26 『生活水の確保』参照

ウ 生活水を有効に使うため、固形物は流さなくて済むように工夫します。

- ・トイレットペーパーはごみ袋に捨てる。
- ・新聞紙に用を足して、ごみ袋に捨てる。

エ 仮設トイレを設置する。

①トイレが使用不能の場合や避難者数に比べてトイレ数が少ない場合などは、仮設トイレの設置を市の災害対策本部へ要請します。

②仮設トイレの設置場所は、次の点に留意します。

- ・飲料用井戸の周辺には設置しない。
- ・し尿収集用バキュームカーの出入り可能な場所に設置する。
- ・避難者が利用しやすく、照明用の電源が確保できる場所。
- ・避難所内のトイレが使用可能となり、仮設トイレが不要となったら市の災害対策本部へ撤去要請をします。

オ 簡易トイレを自分たちで作ることも必要となります。

①トイレが確保できない場合には、次のような方法で簡易トイレを設置することもやむを得ません。

- ・マンホールのふたを開けて、足場を作り、周囲を囲う。
- ・校庭や公園などに穴を掘り、ビニールシート、18リットルの空き缶、ドラム缶などを埋めて便槽代わりにし、足場を作り、周囲を囲います。

②簡易トイレの設置場所については、仮設トイレと同様の注意が必要です。

カ トイレの衛生管理には十分注意を払います。

- ①避難者にトイレの清潔な使用方法について呼びかけます。
- ②トイレの入口には、消毒水を手洗い用として置きます。
- ③トイレ内は、常に清潔に保ちます。

(4) 清掃

多くの人共同生活を行う避難所においては、避難者全員が避難所内の清掃を心がける必要があります。

ア 共用部分の清掃は、居住組をひとつの単位として当番制を作り、交代で実施します。

①当番に参加できる人と出来ない人が生じる場合があります。清掃当番以外の様々な仕事（食事配食など）と組み合わせながら、不公平のないように役割分担をします。

イ 居住部分の清掃は、毎日1回の清掃時間を設けて行います。

①清掃時間では、換気と寝具の整えなどの簡単な清掃を行います。

(5) 衛生管理

ライフラインが停止し、物資が不足する中での避難所生活は衛生的ではありません。病気の発生を予防し、良好な環境を作るため、衛生管理には注意しなければなりません。

ア 「手洗い」を徹底します。

①物資担当者と相談して、手洗い用の消毒液を調達して、トイレ

や洗面所に配置して、手洗いを励行します。消毒水は作成日を明記して、定期的に交換します。

②季節によっては、施設内の消毒を必要とする箇所（調理室など）を定期的に消毒します。

イ 食器の衛生管理を徹底します。

①食器は、出来るだけ使い捨てとします。

②食器の再利用を行う場合、各自の用いる食器を特定して、食器の洗浄は、各自の責任において行います。

ウ 集団生活では、風邪などの感染症が蔓延^{まんえん}しやすくなります。

①外出から帰ってきたら、うがいや手洗いをして、予防策を講じます。

②マスクやうがい薬など必要なものは、担当者を通じて市の災害対策本部に要望します。

（6）ペット

様々な人が生活する避難所内で、ペットと共存するには一定のルールを設ける必要があります。

ア 避難所の居住部分には、原則としてペットの持込は禁止します。

①様々な価値観を持つ人が共同生活を行う場では、ペットの飼育をめぐる問題が発生します。また、動物アレルギーの人がいる可能性を考慮すると、居住部分へのペット持込は禁止します。

イ ペットは敷地内の屋外にスペースを設けて飼育します。余裕がある場合には屋内でも可能です。

①ペットと共同生活を行うためには、ペット専用のスペースを設ける必要があり、清掃は飼い主が責任を持って行います。

ウ ペット飼育者に対して届出を呼びかけて、飼育者の氏名、動物の種類と特徴などを記載した名簿を作成しておく有効です。

資料7 『ペット飼育者名簿』参照

（7）医療・介護活動

すべての避難所に、救護所が設置されるとは限りません。できる範囲で傷病者の治療にあたり、高齢者、身体障害者や子供などの介護を行っていく必要があります。

ア 近隣の救護所の開設状況を把握します。

①大災害時には、避難所に「救護所」が設置され、診療を受ける

ことが可能です。

- イ 医療機関の状況を把握し、緊急の場合に備えます。
 - ①避難所に「救護所」が設置されない場合は、市内の医療機関の状況を災害対策本部や消防署に確認し、緊急の場合に備えます。
- ウ 避難所内に医務室を設けます。
 - ①被災直後は、市内の医療機関も機能していないことが考えられます。急病人や負傷者に対応するため、医務室を設けます。
 - ②避難者の中に医師や看護師などがいる場合には、協力を要請します。
- エ 避難所内にある医薬品の種類、数量を把握するとともに、必要最低限の医薬品について、災害対策本部に請求します。
- オ 避難所内の傷病者を確認します。
 - ①避難者で持病のある人など医療を必要とする可能性の高い人については、次のようなこと把握します。ただし、プライバシー保護の観点から、把握した情報管理には注意する必要があります。
 - ・ 氏名、年齢
 - ・ 使用している薬
 - ・ 傷病名、注意事項
 - ・ かかりつけの医療機関
- カ 高齢者などで長期間の避難所生活が困難な人については、本人の希望を聞いて、施設や病院への一時収容を災害対策本部へ要請することも必要です。

(8) 生活用水の確保

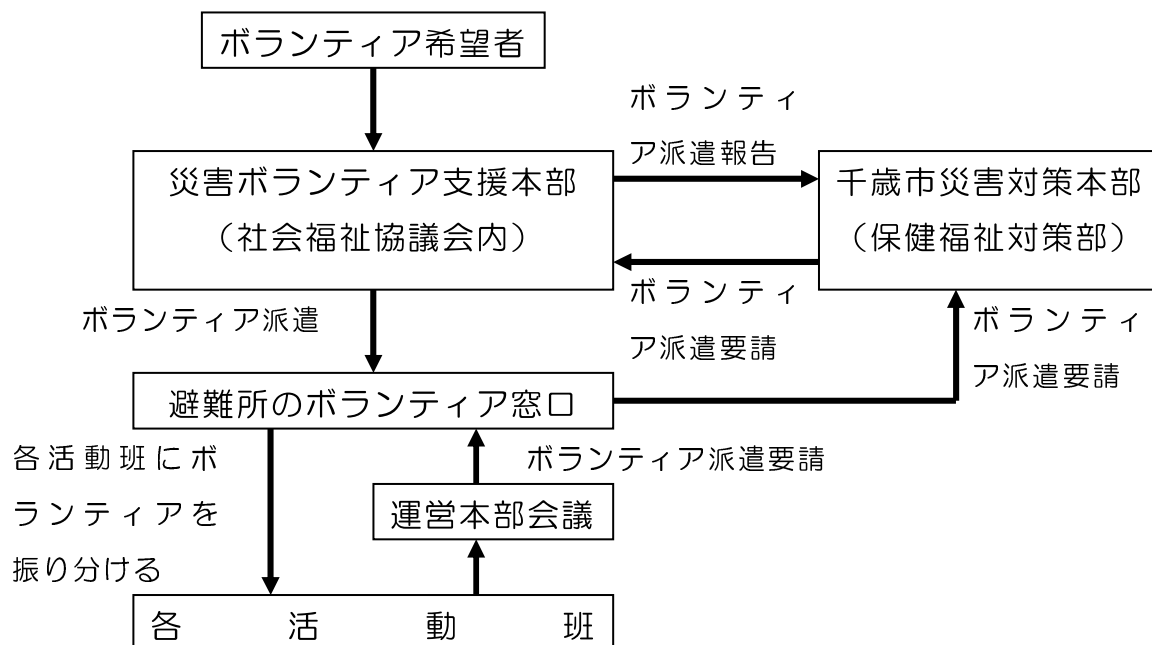
ライフラインが停止している場合、生活用水を確保することは非常に重要です。

- ア 避難所内で使用する水は、用途によって明確に区分します。
 - ・ 飲用、調理用
 - ・ 手洗い、洗顔、食器洗い用
 - ・ トイレ用
- イ 飲用、調理用水の確保
 - 飲料用の水は、原則として救援物資として届くペットボトル容器に入った水及び給水車の水とします。
- ウ 手洗い等で使用した水は、トイレ用に再利用します。

6 ボランティア班

(1) ボランティアの受け入れ・管理

災害時、避難所には多数のボランティアが詰めかけることが予想されます。頼り過ぎにならないように注意しながら協力を仰ぎ、避難所を効率よく運営します。



ア ボランティアの受け入れ

①避難所運営の中で、特に労力の大きくかかる部分については、必要に応じてボランティアの支援を受けます。

- ・避難所の運営は、避難者組織による自主運営が基本ですが、必要な作業のうち、労力を多く必要とする部分についてはボランティアの支援を要請します。

②ボランティアの派遣は、災害対策本部を通じて行います。

- ・避難所を直接訪ねてきたボランティアについては、災害ボランティア支援本部を紹介して、ボランティア登録を行うことをお願いします。

イ ボランティアの管理

①ボランティアに対してどのような協力を求めるかについては、運営本部会議で検討します。

②ボランティアに対する具体的な作業指示は、運営本部の活動班の担当者が行います。

- ・ボランティアの安全には十分配慮し、危険な作業は行わない。

7 総務班

(1) 記録

避難所内の情報を記録することは、出来事を正しく残すだけではなく、避難所運営の資料にもなります。

ア 避難所の記録簿を作成し、記録をしますが、記録簿のほかに被害の状況や生活の様子を示す写真を入れるとより良くなります。

資料8 『避難所記録用紙』参照

(2) 在宅被災者

大規模災害が発生するとライフライン（電気、ガス、水道）が停止します。このため、自宅に被害が無くても食糧の調達が出来ずに避難所に来る人がいます。このような人へも食糧や物資の供給をしなければなりません。

ア 食糧や物資は、在宅被災者の分も一括して避難所へ送られてくるのが予想されます。

①被災直後の混乱の中では、避難所内の分と避難所外の分を区分けして配給することは困難です。避難所は、その地域全体の供給拠点となります。

②災害対策本部へ食糧や物資の必要量を報告する際には、在宅被災者分を合わせて報告します。

③避難所運営本部は、在宅被災者の協力も得て災害に対応します。

・避難所で行っている食糧や物資の受入・管理、災害対策本部との情報連絡などについても在宅被災者と協力して行います。

(3) その他

ア 避難所内のアンケート調査

①避難所内でアンケート調査を実施し、将来の見通しなどについて検討するときの判断材料とします。調査項目としては、次のようなものが考えられます。

・自宅の被災程度 ・住宅確保の見通し
・仮設住宅の希望 など

②プライバシー保護のため、調査結果の取り扱いには注意が必要です。

イ 避難所外活動

避難所の運営だけではなく、地域全体として復興していくために避難所の組織が活動することも可能です。